



村民号(京都方面)に行きました



10月29日(日)53名の参加(うち小学生以下9人)により、恒例のバス旅行に行きました。行先は、八幡市の国宝・国指定史跡 石清水八幡宮です。ウォーキングが主な目的なのでケーブルカーは利用せずに表参道の石段を一步一步上りました。子供達が先頭集団となり駆け上がるようにして先を急ぎ、大人はついて行くのが大変でした。御社殿前で記念撮影し、各自でお参りのあとは境内や展望台を自由散策、表参道または裏参道を歩いて下山し、少し足が痛くなりました。

昼食後、カップヌードルミュージアムでは、各自が容器に絵を描き、味やトッピングを指定、世界に一つだけのカップヌードル作りを体験しました。最後に、めんたいパークに寄ってお土産を買い、帰路につきました。満員のバスの中では狭いながらもクイズやビンゴゲームでおおいに盛り上がり、足の疲れも心地よく、とても楽しい一日となりました。

こども園・小学校1・2年合同の秋祭り

10月19日(木)こども園園児と小学校児童1・2年生合同の秋まつりが行われました。手作り神輿3基で練り歩きました。

「やさやれ」の大きなかけ声をかけながら元気よく区内を回りました。



身近で見られる植物 ③⑩

ノコンギク 〈キク科〉

ヨメナとよく似るノコンギク。ヨメナは田んぼの畦など少し湿気たところに多く、ノコンギクは林縁などの山野



に多いようです。家の周りに生えている野菊をずっとヨメナと思っていたのですが、この機会によくよく調べてみると、ノコンギクのように見分けるには葉に毛が生えてザラザラしているのがノコンギク。



ヨメナは毛がなくツルツル。花の色は写真のように濃い紫から白っぽいものまで個体差があります。



ご愛顧感謝デー

11月26日(日)

日曜カフェ!

9時30分~12時

コーヒーご注文の方に福引きのお楽しみがあります。ぜひお越しください。



- お知らせ
- 11月19日(日) 午前 小学校学習発表会 午後 第64回宿南地区文化祭
 - 11月22日(水) 健康長寿大作戦!!2023~地域ぐるみでヘルシーエイジング~ ふれあい倶楽部ホール 19:00~
 - 11月23日(金) ふれあい隊・花水木の会 奉仕作業(宿南ふれあい倶楽部)



草庵先生紹介

日記 57



江戸から京都まで戻ったが、病が重くなり独り宿で寝る盛之助

宮崎和夫さん作

池田草庵たちが高名な佐藤一斎に会うため、江戸に着いたのは嘉永4(1851)年3月25日であった。一斎に会う日、おいの盛之助は病のため、宿に残り草庵について行くことはできなかった。草庵が帰ってから話すことを聞き、日記「緊要備忘録」に書きとめている。

「晴。今朝早起。師は約束されていたので、朝早く佐藤氏を訪ねられる。盛(盛之助自身のこと)は、今なお体調不良でついて行くことができない。残念だ。それで、24日以降の日記を書く。午後、師はまた佐藤氏が講義をしている愛日楼に出かけられる。師の話。一斎の講義は言葉は少なく、感動するところはなかった。講義を聴いている者は50人ほどで、いねむりする者もあり、緊張感に欠けていた」(同年3月28日)(吉田公平編「池田盛之助の『一斎先生訪問日記』」から)

草庵にしては期待外れだったかもしれない。しかし、一斎の周辺の大橋訥庵など儒学者と交わることができ、江戸に来た収穫は十分にあった。訥庵などを通して、貴重な書物を借りたり、それを書き写したりもできた。少し元気になった盛之助も加わって上野や浅草など見物に出かける日もあった。

江戸には25日間いて、帰路についた。一路、日光に向かい、それから中山道を経て京都に向かった。この帰路、盛之助の体調はだんだん悪くなっていった。伊勢神宮などを回り、伊賀上野に来たときの日記。「久しぶりの晴れ。(中略)盛、今日午後より腰痛並びに発熱で手足まひ。とても苦しい。晩宿に着き、大発熱。身が焼けるようだ。服薬する。」(同年5月13日)

京都に着いたのは、江戸を出てから約1カ月後の5月15日。盛之助は歩くことすらほとんどできなくなっていた。「雨が降ったりやんだり。師と秀次は春日潜庵氏を訪ねるために外出。自分は横になって独り寝ていた。退屈なり」(同年5月16日) 毎日丹念に書かれていた「緊要備忘録」だが、これ以後は書かれていない。草庵たちが、青谿書院に帰ったのは、5月28日の夜であった。

池田草庵先生に学ぶ会